街角スケッチ



認知症に寄り添うまちへ

9月30日　認知症ほっとけんまち敦賀

市では、「認知症ほっとけんまち敦賀」をスローガンに、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちを目指し、認知症支援に取り組んでいます。その一環として、プラザ萬象で講演会を開催しました。認知症の人と家族の会 岩谷洋子（いわたにようこ）さんによる講演のほか、認知機能を確認できる「脳の元気度チェック」などを行いました。介護をしている方など約50人が参加し、認知症への理解を深めました。講演では、「認知症の人の話をしっかり聞いていくと、本人の気持ちの理解につながる。昔のことをよく覚えているので、気分が穏やかになるよう記憶を呼び起こす話をたくさんしてあげてほしい。」と述べられました。参加者の奥田千代子（おくだちよこ）さん（86）からは、「介護の苦労を相談し合い、良い気分転換になった。これからも家族で協力していきたい。」との声が聞かれました。



力を合わせて　収穫の喜びを体験！

9月25日　田んぼの学校　稲刈り実施

「田んぼの学校」は、児童が稲刈りを通して自然に親しみ、農業の喜びや農家の苦労を体験することで、食や農業への理解と関心を深めてもらうことを目的としています。今回は、沓見地区での稲刈りに、沓見小学校と粟野南小学校の児童合わせて94人が参加しました。児童たちは、稲刈りの方法について説明を受けた後、黄金色に実った稲を前に、少し緊張した様子で作業を始めました。鎌をしっかり握り、友達と声をかけ合いながら、力を合わせて一株ずつ稲を刈っていきました。松下知世（まつしたちとせ）さん（粟野南小5年）は、「稲の根元が太いのでを刈るのが難しかったけれど、慣れてくるとすぱっと切れるようになって楽しかった。お米は大好物の塩おにぎりにして食べたい。」と笑顔で話していました。



広がる　「敦い輪」！

10月4日　JoyJoy 敦活フェスタ2026

敦賀で人生を豊かにし、よりよい社会づくりに取り組むNPO法人や市民活動団体を紹介する「JoyJoy 敦活フェスタ2026 ～海も人も近い町敦賀 未来へつなぐ敦い輪～」が、きらめきみなと館で開催されました。35団体が参加し、ステージ発表や展示、体験、ワークショップなどを通して活動を紹介。団体同士のネットワークづくりや、来場者に市民活動への理解を深めてもらうことを目的に開催され、ゲームやステージ発表も盛り上がりました。実行委員会の委員長の川端誠（かわばたまこと）さんは、「敦賀市の海と人とのつながりの大切さを再確認してほしい。」と話していました。市民活動団体として参加した長船初美（おさふねはつみ）さんからも、「地域の規模が小さいからこそ、お互いの活動を知り、応援し合えることがうれしい。活動を通じて人と人との温かい輪が広がっていることを実感している。」と喜びの声が聞かれました。



生徒代表が語る、いじめ撲滅への願い

10月2日　市S連「市内中学校統一活動」の市長報告会

市内6中学校の生徒代表で構成される市Students連合会（市S連）が、いじめ問題解決に向けたこれまでの活動を市長に報告しました。今回は生徒代表14人と教職員が参加し、「いじめ撲滅共同宣言（Positiveでアクセル 思いやりでブレーキ）」や「市内中学校統一活動」など、生徒主体で取り組んだ活動について発表しました。西村直真（にしむらなおま）さん（松陵中3年）は「自分たちでいじめ問題をなくしたいという思いを市長に伝えられてすがすがしい。この宣言には、互いに支え合い、協力することでチームの一体感を持ってほしいという思いを込めた。敦賀市全体でいじめ撲滅に取り組んでいきたい。」と決意を語りました。市長は、「一人ひとりの人生がかかっている。傍観者ではなく、勇気をもって支える側になってほしい。」と述べ、生徒たちの取り組みに力強いエールを送りました。今回発表された「いじめ撲滅共同宣言」のポスターは、今後、各学校に掲示される予定です。

イキイキ健活！「私のプラス1」

生活に気軽に取り組める健康習慣を1つ加える「プラス1」運動。毎月、皆さんの「プラス1」を紹介しています。

食事はおいしくバランスよく！
～「食」がつくる元気なからだ～



◀杉本さん、岩井さん

お互いに20年以上前に大きな病気や手術を経験したことをきっかけに、健康の大切さを実感しました。それ以来、5大栄養素のバランスを意識した食事を心掛け、ビタミンや食物繊維も積極的に摂っています。調味料は体によいものを選び、水分補給も欠かしません。毎日の食事が健康な体づくりの基本と考え、これからも無理なく楽しみながら続けていきたいです。

皆さんの「プラス1」を紹介しませんか？詳しくは、健康推進課（☎25-5311）までお気軽にお問い合わせください。

ウォンボムさんの敦賀研修ダイアリー Vol.6

姉妹都市である韓国東海（トンヘ）市と職員相互派遣事業を行っています。今年は、東海市から20人目の研修員として、金 源範（キム ウォンボム）さんが、11月まで市役所で研修を受けています。

9月には、商工貿易振興課、農林水産振興課、市民課、市民協働課、環境政策課、生活安全課および危機管理対策課で研修を受けました。

9月初めには、敦賀市の代表的な祭りである「敦賀まつり」があり、商工貿易振興課で祭りの準備を手伝いました。一番印象に残っているのは「民謡踊り」です。大勢の人が同じ歌に合わせて踊る姿が新鮮に映りました。また、本当に多くの露店を見る面白さがありました。中には韓国の料理の露店もあり懐かしかったです。私の住む東海市にも「武陵祭（ムルンジェ）」という大きな祭りがありますが、雰囲気はかなり違います。東海市は広い運動公園で祭りを行いますが、敦賀市は氣比神宮を中心に行われるためか、市民の参加がより活発な印象を受けました。山車や神輿を管理する地域の人々が直接担いで巡回する姿は、伝統を大切にする日本らしさを感じました。

危機管理対策課では、さまざまな自然災害に対する「出前講座」を見学しました。東海市の公務員の業務にはないものなので、すごいと感じました。発表だけでなく質問に対する答えも必要なので、職員の業務への理解度が非常に高いのだと感じました。





10/14 ダイヤモンド・プリンセス

クルーズ船寄港　市民ら歓迎

10月5日 ウエステルダム寄港
10月14日 ダイヤモンド・プリンセス寄港

10月5日にオランダ船籍の大型クルーズ客船「ウエステルダム」が敦賀港に寄港し、外国人観光客ら約2,000人が市内の観光地を満喫しました。乗船客を太鼓で出迎えた郷土太鼓伝承会の吉岡恒雄（よしおかつねお）さん（70）は「乗客の方々はにこやかに手を振ってくれるなど喜んでくれた。大変やりがいがあった。」と話していました。

また、10月14日には約2,700人を乗せた英国船籍の大型クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」が敦賀港に寄港しました。この日も、氣比神宮や金ケ崎エリアを中心に雅楽演舞や折り紙体験などの日本文化を体験できるイベントが行われ、市内は多くの乗船客で賑わっていました。オーストラリアのシドニーから参加し、書道体験に参加したジア・クラリサ・ニコラウさん（53）は「敦賀は寛大な街。市民の笑顔のおもてなしに優しさを感じた。」と話していました。



ミニ機関車大集合！家族連れ満喫

10月10、11日 つるが鉄道フェスティバル

つるが鉄道フェスティバルが10月10、11日の2日間金ケ崎緑地で開催され、2日間で約3,000人の家族連れなどで賑わいました。このイベントは、2012年から「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会が主催。15回目となる今年は、長さ200mを超えるレールを使ったミニ機関車大集合が催され、北陸新幹線や蒸気機関車などを模した小型の車両が走り、多くの子どもらが乗車体験を楽しんでいました。Nゲージのジオラマや巨大プラレールのコーナーでは、子どもたちが走る電車に夢中になっていました。この日、福井市から家族3人で訪れ、Nゲージジオラマの運転体験を行った丸山誠（まるやままこと）さん（5歳）は「楽しかった。サンダーバードが好きで、将来電車の運転士になりたい。」と話していました。

また、11日には、旧敦賀港線で「敦賀廃線ゴミ拾いウォーク」が開催され、約100人の参加者が、プラスチックごみなどを拾い集めました。